

大阪府軟式野球連盟交野支部 大会規定

2022年2月

1. 試合の運営

- (1) チームは、試合開始予定時刻の30分前までに、大会本部席へ打順表3部と試合球2球を提出すること。(ダブルヘッダー連続試合の場合は、1試合目終了後すみやかに提出すればよい。)
- (2) 打順表の交換と攻守の決定は、審判員または役員との立ち会いのもとで、両監督(学童部は主将)によって行なう。このさい、審判員または役員より特別グラウンドルール等を説明する。
- (3) 試合開始予定時刻には、ユニフォームを着用した登録選手が9名以上そろっていること。選手が8名以下の場合は棄権(不戦敗)とする。なお、選手がちょうど9名のチームは、必ずボール拾いの要員をベンチ入りさせること。
- (4) 打順表の選手名は、フルネームで記入すること。ベンチ入りする控え選手名も、礼儀として全員を記入すること。
- (5) ただし当支部では、遅れて来た選手でも所定の登録がなされておれば、交換した打順表への記入には関係なく、球審に告げて確認を受けることにより、途中出場を認める。
- (6) 監督・主将が欠場する場合は、代行する者の氏名を、審判員または役員に申し出るとともに、打順表にもその旨を記入すること。
- (7) ベンチは、組み合わせ番号の若い方のチームを1塁側とする。リーグ戦については別途指定。
- (8) ベンチに入れる人員は、次のとおりとする。
 - ① 登録されユニフォームを着用した選手〔一般部の監督コーチも含む〕20名以内。
 - ② チーム責任者・マネージャー・スコアラー各1名以内、計3名以内。
 - ③ (3)項に定めるボール拾い要員。
 - ④〔学童部のみ別枠〕登録されユニフォームを着用した監督1名・コーチ2名以内。
- (9) 大会当日における悪天候等での開催可否の決定は、原則として第1試合開始予定時刻の1時間前とする。午前中止し午後から行なうような場合もある。なお、万一連絡のつかない場合は、現地集合を原則とする。
- (10) 大会開催中、悪天候や日没等となった場合における試合の開始・続行・中断・中止に関しては、審判員・役員の判断で決定するものであり、チームが意見を申し出ることにはできない。
- (11) 前の試合が早く終了した場合は、予定時刻より早く試合を開始することができる。

2. 試合球・バット

- (1) 試合使用球
J S B B (全軟連) 公認の、「マルエスボール」または「ケンコーボール」を使用する。
一般部はM号球。学童部はJ号球。
試合前に両チームが2個ずつ新球を出し、以降紛失したチームが補充する。
- (2) バット
金属製・ハイコン(複合)バットの使用は、J S B B公認マーク付きの物に限られる。
使用区分は、学童部では一般用も使用できるが、一般部では少年・学童用は使用できない。
※木・竹製バットは、公認制度はなく、野球規則の範囲内で使用可能である。

3. 捕手防具、ヘルメット

次の各項は、必ず着用しなければならない。

ファウルカップ以外は、J S B B 公認のマーク付きで、改造されていない物に限る。

- (1) 捕手= マスク（スロートガード）、ヘルメット、プロテクター、レガース、ファウルカップ
※投球練習を座って受ける選手も、マスクとヘルメットは着用すること。
- (2) 打者・次打者・走者・ベースコーチ= ヘルメット
※当支部では、一般部でのベースコーチのヘルメット着用は任意とする。

4. ユニフォームなど

- (1) ユニフォームなどは、全体において品位を保つものでなければならない。
 - ① ユニフォーム
 - ② 帽子
 - ③ ストッキング（ソックス）
 - ④ アンダーシャツ
 - ⑤ ベルト

※見える部分は、チーム全員、基本的に同色・同意匠であること。
※アンダーシャツの各人の「袖」「首」の長短・有無は問わない。
※ストッキングはソックス型（一枚物）でも可。
※シューズはチームで揃える必要はなく自由である。

注：義務づけられたユニフォーム・防具などを用意できないチームは、棄権（不戦敗）とする。
選手個人については、基準をみたま物を着用するまで出場できない。
- (2) ユニフォームの左袖には、[大阪] または [交野] を必ず付けること（ローマ字でも可）。
- (3) ユニフォームの右袖または胸に、マークを付けてもよい。
- (4) 背番号は0番～99番とする。監督は30番、コーチは28番・29番、主将は10番に限定する。
- (5) ユニフォームの背面に選手名を表記してもよい。表記する場合は、チーム全員が、同色の文字で、背番号の上部に、ローマ字で姓のみ（または名のイニシャルと姓）とすること。
- (6) レッグウォーマー（脚）、イヤウォーマー（耳）、フェイスウォーマー（覆面）は、プレイ出場時は使用できない。サングラス、リストバンドは、投手の投球時は使用できない。

5. 試合規程

- (1) 当支部の試合は、一般部は7イニング制、学童部は2022年より6イニング制とする。
- (2) 全試合で時間制限を採用する。
準決勝までは1時間25分、決勝戦は1時間40分とする。
計時は、試合開始の球審の「プレイ」宣告からとし、制限時間に達した時点でのイニング（表裏）を最終回とする。なお、時間切れで終了した試合は、4回以前でも正式試合成立とする。
- (3) 7回を終えて同点の場合、試合終了とする（延長戦は行なわない）。ただし、決勝戦に限り、残り時間にかかわらず8回からタイブレークとする（(6)項参照）。
- (4) 得点差によるコールドゲームを全試合で採用する。
3回以後10点差、5回以後7点差とする。
- (5) 悪天候等で打ち切られた場合の正式試合成立は「5回」とする。未成立（ノーゲーム）の場合は、後日再試合とする（サスペンデッドゲーム＝特別継続試合は行なわない）。なお、試合成立後の勝敗決定については、野球規則7.01(g)(4)[注]のとおりである。

- (6) 以上各項の規程による正式試合が終了したときに同点の場合は、次のとおりとする。
- ① 準決勝までは、選手9名ずつによる抽選を行い、勝ち上がりチームを決する。
 - ② 決勝戦に限り、タイブレーク〔継続打順、無死1・2塁〕を、勝敗を決するまで行なう。
(ただし、悪天候等でタイブレークを続行できない場合、抽選で優勝を決する。)
 - ③ リーグ戦は、引き分けて終了とする。

6. 禁止事項・遵守事項

- (1) 試合中および試合前後を問わず、ベンチ内・グラウンド内での喫煙およびガム等を口に含むことを禁止する。また、試合中喫煙のためにベンチを離れることも禁止する。
- (2) 試合中、ベンチ内・グラウンド内での携帯電話その他の通信機器の使用は禁止する。メガホンは、ベンチに1個のみ持ち込んで使用してよい。
- (3) ベンチおよびグラウンド内への、素振り用の鉄棒やバットリング等の持ち込みは禁止する。
- (4) 試合中、不要な試合用具はグラウンド内には置かずに、必ずベンチ内に入れること。
- (5) 審判員に抗議ができる者は、〔監督または主将または当該選手〕のうち1名のみとする。ただし、ルール適用上の疑義・確認に限られる。(ボール/ストライク、アウト/セーフ、フェア/ファウル等、審判員の判断に基づくジャッジに対しては、抗議することはできない。)
- (6) 相手チームや審判員に対する聞き苦しいヤジは厳禁する。観覧席での自チーム側応援者に関しても、そのチームの責任とする。
- (7) 全軟連が定めている作戦タイムの1試合回数制限および投手の12秒/20秒投球ルールの罰則は、当支部では当面採用しない。各チームと審判員は、試合を無駄に遅延させぬよう互いに協力すること。
- (8) ファウルボール等プレイから外れた試合球は、場内のもは近い方のチームが、また場外に出たボールは攻撃側チームが、すみやかに回収して球審まで戻すこと。
- (9) 次打者は次打者席に入り、相手投手が投球姿勢に入ったらプレイをよく注視しておくこと。

7. その他の注意事項

- (1) 会議や抽選会および打順表の交換時に役員・審判員より説明されたことや決定されたことは、必ずチーム全員に周知徹底すること。不徹底によるトラブルはチームの責任とする。
- (2) 試合前のキャッチボール・トスバッティング等は、外野エリアに限り認める。
- (3) 試合終了後、ベンチを出るさいには清掃を行ない、観覧席を含めゴミはすべて持ち帰ること。また、勝ったチームはグラウンド整備を行なうこととする。
- (4) 試合会場で起こった傷害・賠償事故および物損事故等について、連盟は一切その責任を負わない。ただし大阪府軟連行事保険を適用する。
- (5) この大会規定に定めのない事項については、『公認野球規則』・『アマチュア野球内規』・『全日本軟式野球連盟競技者必携』・『大阪府軟連/少軟協 要覧』に記載の各規定が適用される。